

## 【質疑応答】

質問者 1：日本では、海外のように障害者に一般の方が手を差し伸べることが少ない。東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、そのようなことを浸透させるために考えられることはあるか。

講師：経験が必要。日本では健常者と障害者とを区別され過ぎている。お互いの立場を体験できるロールプレイングなどを積極的に行うべき。さらに、障害当事者もボランティアなどの社会参加することで差し伸べられる側ではなく、差し伸べる側になることも重要であり、手を差し伸べることが、大それたことではないような環境整備ができればよいのではないか。

質問者 2：エレベーター等の不正利用（車椅子使用者よりも健常者が常に利用している状況等）を防ぐために不便な場所に設置することも効果的ではないかというご意見だが、健常者側から強硬な意見がでてくるのではないか。

講師：バランスの問題だと考える。「便利なところで利用できない」と「不便だが利用できる」のどちらかで考えると、まずは障害者が「利用できる」ことが重要である。具体例として、高速道路の車いす用駐車スペースは、トイレに近い場所にあるが、売店などには遠い場所に設置されていることが多い。

質問者 3：車いす用駐車スペースには、罰則規定はないのか。

講師：日本にはない。また、利用対象者も明確となっていない。対策として、免許更新での情報提供や免許取得時などでの指導があればよいと思う。設備はあるが、ルールがないのが問題だと思う。

質問者 4：2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催に際し、民間企業、行政等の各セクターはどのような取り組みが必要だとお考えか。

講師：日本にとってチャンスだと思う。世界基準のバリアフリーやユニバーサルデザインに変換すべき時期ではないだろうか。具体的には、対策が遅れているソフト面。また、宿泊施設の対策は必須になる。キーワードは、「専用〇〇」ではなく、「兼用〇〇」であること。例えば、アメリカでは、「車椅子用トイレ」はない、すべてのトイレが車椅子使用者も利用可能なスペースがあるため。

質問者 5：宿泊施設として、障害当事者のお客さまを迎えるにあたり、どのようなことに配慮すべきなのか。

講師：車椅子ユーザーとしては、すべての出入口幅を広くしてほしい。ホテルなどのバスルームの入口も段差をなくし、出入口幅を広くしていただくと利用することができる障害者もいる。単に「バリアフリールーム完備」と謳っていると、障害者も完璧を求めてしまい、クレームのもととなることがある。障害当事者とすると、詳細な情報提供を行っていただくことで障害者側が判断する材料を提供してほしい。

質問者 6：例えば、バスのバリアフリー化を考える際、バス側だけで対策を考えがちであるが、障害者側で考えられる対策もあるのか。

講師：現在のバリアフリー化は、一方向だけで考えがちであるが、本来は双方向で考えるべきだと思う。例えば、バスでいえば、車両だけではなく、車椅子使用者や車椅子メーカー側で対応できることを考えていくべきだと思う。

質問者 7：車椅子使用者は雨の日に外出されるのでしょうか。また、自動販売機の使い勝手はいいのでしょうか。

講師：車椅子ユーザーとして、雨や雪の日、砂利道や砂道などは苦手。雨の日には、帽子やウィンドブレーカーなどで外出します。自動販売機よりは銀行 ATM や券売機の方が不便に感じる。自動販売機はコンビニで代用できるが、銀行 ATM や券売機の液晶画面は立っている人の目線で（人間工学的に）見やすいように設計されていて、車椅子ユーザーの目線では液晶画面が見にくいこともある。

以上